

## 2019年度 伊那西高等学校 学校自己評価

<p>総合的な評価並びに課題</p> <p>本校は、今年度で35年目を終えることになる。創立以来の伝統を守りつつ、しかも新しい時代に対応した学校作りを目指して運営してきている。</p> <p>今年度、次に示すような重点方針のもと、諸施策に取り組み、概ね目標を達成することができた。</p> <p>教員と生徒はそれぞれが真摯に取り組む中で、それぞれが目指す目標達成ができたと考えられ、地域からも一定の評価を得られたものとする。</p> <p>しかしながら、入学者の確保という点においては、厳しい状況が続いており、今後の大きな課題である。</p> <p>授業改革という点においては、教育機器の充実に併せ、教員研修を行うことにより一定の成果が見られ、それが生徒の学力定着及び向上につながっている。</p> <p>また、クラブ活動、生徒会活動などは、それぞれの特長を生かした活動がなされ、地域の皆さんとの協働も実施できている。今後もこのような活動を続けていく中で、本校に対する理解をますます深めていただくとともに、生徒の成長の糧としたい。</p>
---

<b>【重点方針】</b>	1. 「建学の精神」の共有
<b>【事業目標】</b>	宗教行事ならびに「仏教」（学校設定教科）の意義を再確認し、本校が存在する意味を明確にする。
<b>【評価指標】</b>	教員の研修への取り組み状況／生徒が何を学び何を考えたか

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
年間行事における意義の再構築	①宗教行事（釈尊降誕会・報恩講）の本校における位置を確認し、生徒の主体的取り組みを構築する。 (評価指標) 終了後、生徒が何を学び何を考えたか。 欠席者を0にする。	宗教科 HR
学年行事における意義の再構築	①「東本願寺研修」（1年生）を通じ、本校生徒として、どのような高校生活を送るべきかを自覚する。 (評価指標) 終了後、生徒が何を学び何を考えたか。 欠席者を0にする。	宗教科 HR
授業による意義の再構築	①「仏教」の授業を通じて、毎日の生活を振り返り、人としていかに生きるべきかを考えながら生活できる人になるように努力する。 (評価指標) 生徒が毎日の生活とどう結びつけ、自分の生活にどんな変化をもたらしたか。	宗教科 HR
教員研修	①初任研修、宗教研修、宗教担当者研修への参加 (評価指標) 研修報告書の提出	管理職 宗教科

<p>今年度の主なる留意点</p> <p>1. 生徒が、宗教行事を通して、自己を見つめ、自己のあり方について考えられるようにする。          (1) 積極的な参加ができたか。          (2) 自己を見つめることができたか。</p> <p>2. 教員が、宗教行事を通して、生徒の成長を確認し、成長のサポートができるようにする。          (1) 宗教行事の意味をきちんと伝え、生徒の積極的参加に寄与できたか。</p>
--

反省並びに来年度へ向けて

生徒は積極的な参加ができ、成果があがったと考える。宗教行事や授業、研修を通して、教えを「聞く」、自分について「話す」、そして「考える」という作業を繰り返しているが、その中に「発見」と「気づき」があり、自分自身の生活を見直す機会となった。

生徒の学びが深まっているのは、教員の指導によるものであり、そのことから教員の寄与が認められる。

来年度は、上伊那地区の人権擁護協議会の事務局ともなることから、人権を視野に入れた中で、建学の精神に基づき研究したい。

【事業目標】	あたりまえなことをあたりまえにできる生活を徹底し、本校の原点を研ぎ澄ます。
【評価指標】	あいさつ、清掃、身だしなみの3要素において、伝統のスタイルを維持できているか。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
挨拶の励行	①「あいさつ」の励行を徹底し、互いに気持ちの良い生活ができるようにする。 (評価指標) 校内外の人に対して、気持ちの良い(形式的でない)挨拶ができているか。	生徒指導 HR
清掃の徹底	①清掃活動を通して、奉仕の精神を磨くとともに、丁寧な生活者としての基盤を養う。 (評価指標) 清掃開始時間に全員が清掃場所にいるか。 時間いっぱいの清掃ができているか。 計画的な清掃が行えているか。	美化委員会 HR
身だしなみの端正	①TPOに応じた服装、所作、表現の大切さを知り、円滑な人間関係を構築できるようにする。 (評価指標) 身だしなみを注意される生徒がいない。	生徒指導 HR

今年度の主なる留意点

1. 「縛られ感」や「やらされ感」を持たずに、生徒が実践できるようにする。
  - (1) 生徒が、「理由」を理解した上で、実践しているか。
  - (2) 生徒が、自分のそのような姿に誇りを持っているか。
  - (3) 家庭、地域などの場面においても、同様の実践が行えているか。

反省並びに来年度に向けて

挨拶、清掃、身だしなみの3点については、生徒は概ね自然に実践ができている。地域からの評価も概ね良好で、また、保護者アンケートを見るに、家庭での様子も中学時などに比べて向上しているとの回答も多いことから、浸透していると考えられる。ただ、細部にわたる清掃や身だしなみについては、必ずしもすべての生徒が行えているとは言えない。

これについては、教員側の問題であり、教員がより一層、細部に気配りをし、注意を喚起することが求められる。

【重点方針】	2. 入学者の確保
【事業目標】	入学者を安定的に確保し、活力と経済力のある学校作りを行う
【評価指標】	旧第8通学区から160人以上の生徒が確保できているか。 旧8通学区以外から10名以上の生徒が確保できているか。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
本校の特色の明確化	①宗教教育、女性教育という本校の特徴を明確にし、その良さを発信する。 (評価指標) HPなどで学校方針が適切に発信できているか。	管理職 生徒募集 広報
入試方法の改定	①地域の公立校、周辺の私立高校の入試方法を考慮し、適切で効果的な入試方法を設定する。 (評価指標) 入試方法の改定が行われたか。	管理職 学校改革 生徒募集
コース制の見直し	①本校の特徴が明確に示せるコースを設定し、それぞれのコースの目標を可視化するとともに、内容の充実を図る。 (評価指標) 平成32年度入試より新しいコース制による入試が実施されるか。	管理職 学校改革 生徒募集
通学方法の見直し	①遠方からの通学、交通至難地域からの通学に備え、スクールバスを充実させる。 (評価指標) 平成32年度よりスクールバスの運行が開始されるか。	管理職 学校改革
施設設備の充実	①生徒の学習活動やクラブ活動がより効果的かつ安全に行えるような施設設備を整える。 (評価指標) 調理室のリフォーム、自習室の確保、図書館の整備、クラブ活動施設の充実ができたか。	管理職 学校改革

今年度の主なる留意点
<p>1. 昨年度(平成31年度)入試を検証し、今年度入試のあり方を策定する。 (1) 近隣の公立・私立学校の入試方法に照らして、効果的な入試方法となっているか。</p> <p>2. 本校の「良さ」を明確にし、それが可視化できるようなコース制を導入する。 (1) 本校の「良さ」を言語化できているか。 (2) 地域、時代のニーズに合わせたコース制が模索できているか。</p>

反省並びに来年度に向けて
<p>入試制度を変更して2年目を迎えたが、募集状況は依然厳しい状況である。就学支援金の拡充など、私学にとって有利な条件は増えてきているが、少子化(今年度は特に女子の人数が大幅に減少)に加え、公立志向が強い中で、今後も苦戦が強いられる。教育体制や実績については誇るべきものがあるので、これをいかに伝え、深い理解を得られるかが大きな課題である。また、上伊那地区の公立高校の再編をにらみながら、大きな変革を考えるべき時である。</p>

【重点方針】	3. 教育の質の向上
【事業目標】	授業満足度を高め、「わかった」「できた」という授業にする。
【評価指標】	基礎学力模試（進路マップ）の評価において、80%がC以上の評価を受けるようになる。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
新しい教育方法の促進	①ICT教育を推進し、探求型授業の構築に努める。 (評価指標) すべての教員が、ICTを積極的に活用し、探求型授業の促進を行ったか。	学習
	②アクティブラーニングを推進し、新しい入試方法に対応できる力を養成する。 (評価指標) すべての教員が、アクティブラーニングの方法による授業を行い、参加型授業の促進を行ったか。	学習
授業満足度の向上	①授業評価アンケートを実施し、授業改善に努める。 (評価指標) 授業アンケートを年2回実施し、各自の授業にどのように反映できたか。	学習
	②ユニバーサルデザインの精神を取り入れた教育を実施し、すべての生徒にとって分かりやすく力の伸長が望める授業を実施する。 (評価指標) どんな工夫ができたか。	学習
教員研修の積極的実施	①教科教育方法における最新情報を知り、技術的向上を図る。 (評価指標) 教科会の充実。入試問題の作成。	教科
	②基礎教養の充実を図り、広く生徒の啓蒙に努める。 (評価指標) 平成32年度までに、自己研修制度の作成	管理職
	③互いの授業を見学し合うことで、切磋琢磨に努める。 (評価指標) 年間5時間以上の授業見学。	学習

今年度の主なる留意点
<p>1. 生徒の学習に対する意識を高め、基礎力の向上に努める。</p> <p>(1) 通常の授業が計画通りかつ効果的に行われているか。</p> <p>(2) 日常的に学習習慣が身につく、家庭学習が恒常的に行われているか。</p> <p>(3) 基礎力テスト、模擬試験における評価が高まっているか。</p> <p>2. 新しい指導法を積極的に取り入れ、新しい「評価」に対応できるように努める。</p> <p>(1) 探求型授業の研究および実践が効果的に行われたか。</p> <p>(2) 教員が積極的に研修に参加し、自己の研鑽に努めたか。</p>

反省並びに来年度に向けて

シラバスに基づき、計画的かつ効果的な学習指導ができた。また、電子黒板（プロジェクター）を充実させることで、機器のメリットを生かした授業展開ができるようになった。

I C Tならびにアクティブラーニングについても、教員間での学びの機会やさまざまな研修を通して、研鑽を深めることができています。

定期考査前のドリル学習や長期休業中の課題学習、学習記録などを確実に行うことで、生徒の学習習慣もつき、基礎学力の定着がはかれてきている。

基礎力試験の全国比較を通して、成績のアップ率が全国屈指であることが証明されているが、絶対的な学力という面ではまだまだ課題が多い。学習内容、指導法のより一層の工夫が必要と考える。

【重点方針】	4. 生徒に対する支援の充実
【事業目標】	生活満足度を高め、「楽しい」「成長した」が実感できる校内生活にする。
【評価指標】	入学生の95%以上の生徒を卒業させる。 95%以上の生徒がクラブに所属し、クラブ目標に添って活動できているか。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
教育相談にかかる支援の充実	①スクールカウンセラーによる専門的なアドバイスに基づく助言・援助を充実させる。 (評価指標) S Cが継続的に配置されているか。	生徒指導 特別支援
	②教員同士、あるいは家庭との連携を密に取り、皆で一人の生徒を見守り、育てるという体制を整える。 (評価指標) 転退学者5%以内とする。	生徒指導 学年会
クラブ活動及び生徒会活動の充実	①クラブ加入率を高め、生徒の達成感とさらなる目標設定の支援を行う。 (評価指標) クラブ加入率95%以上とする。 クラブ活動における成果が、生徒の満足するものであるか。	学年会 課外活動
	②生徒会活動の自主性を高め、生徒の達成感とさらなる目標達成の支援を行う。 (評価指標) 生徒会主催行事が、生徒の満足するものであるか。 従来の活動に加えて、どんな活動ができたか。	生徒会
	②施設、設備を整え、安全で効果的な活動ができるようにする。 (評価指標) クラブ活動場所が適切に確保されているか。 クラブ活動資金が適切に準備執行されているか。	管理職 課外活動

今年度の主なる留意点
1. 担任、学年主任、係が連携して、生徒の日常を観察理解し、情報を共有する。 (1) 学年会が適切に運営されているか。 (2) 三者の相互連携が図れているか。 2. クラブ活動が「活動の指針」に基づき、効果的かつ教育効果が高まる活動を行う。 (1) 「活動の指針」が顧問、生徒、保護者の間で共有され、実践できているか。 (2) 生徒が活動を通して、自己発見と自己研鑽ができているか。

反省並びに来年度に向けて  学年の個性が大切になる部分と、本校としてのあり方という部分において、そのバランスを考えないとならないという場面が多かった。 クラブ活動に関しては、加入率が96%を超え、それぞれがその個性を生かして積極的に活動を行い、大きな成果を得られている。その一方、クラブ活動に対する生徒並びに保護者の温度差があり、それによる諸問題も発生してきている。 「活動の指針」の内容を再検討し、生徒にとって成長の糧となるようなクラブ活動を目指したい。
--

【重点方針】	5. 地域貢献・地域連携活動の推進
【事業目標】	地域と恒常的かつ効果的に連携が整い、生徒の成長に寄与させる。
【評価指標】	生徒が地域の一員としての自覚を高めているか。 地域の本校理解が進んでいるか。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
地域との恒常的な連携の構築	①地域の活動に加わり、生徒の社会性の向上を図る。 (評価指標) 生徒の関わり状況と生徒が何を学んだか。	課外活動
	②本校の諸活動に地域の協力をいただき、本校に対する理解度を高める。 (評価指標) 地域からどれだけの声かけをいただいたか。	課外活動

今年度の主なる留意点
1. 地域との連携を深め、地域に根ざした学校作りをする。 (1) 生徒が地域との関わりを通してどのような学びを得たか。 2. 課外活動の「成果」「実績」を重ね、それを効果的に発信する。 (1) 広報が効果的に行われたか。 (2) 地域からの要請にどう応え、それをさらにどのように発展させることができたか。

反省並びに来年度に向けて  地域から多くの依頼を受け、生徒は諸活動に参加することができた。それにより、生徒は地域理解、主体的な活動、協働する力をつけることができています。 総合的な探究の時間との結びつけをし、この活動を生徒たちの人間的な向上に寄与させるべく工夫が求められる。
--

【重点方針】	6. P T A ・同窓会との協力
【事業目標】	P T A ・同窓会と協力し、学校運営を活発化する。
【評価指標】	P T A ・同窓会が積極的に学校運営に参加したか。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
P T A と連携 P T A からの理 解と協力	① P T A 活動のあり方を再検討する。(学校行事・講演 会・公開授業・P T A 研修など) (評価指標) P T A の積極的な参加があったか。本校の 教育活動に理解と協力が得られたか。	管理職 P T A
同窓会との連携 同窓会からの理 解と協力	① 同窓会活動に対して、同窓生の積極的な参加を促す。 (評価指標) 同窓生が本校の教育活動に興味を示し、同 窓会活動や募集活動に協力的になったか。	同窓会

今年度の重点項目および留意点
<p>1. P T A ・同窓会の発信力を高める。 (1) 活動内容や活動の重要性を周知できたか。</p> <p>2. P T A ・同窓会の本校に対する意見や希望を吸い上げ、学校発展の手がかりとする。 (1) 「保護者アンケート」を効果的に実施し、検証できたか。 (2) 同窓会の出席者を増やし、同窓生の声を聞くことができたか。</p>

<p>反省並びに来年度に向けて</p> <p>P T A 活動に際しては、意欲的に参加いただき、すべての行事を成功裏に終えることができた。一部会則の見直しや行事の見直しなどを図りたい。 同窓会は、今年度は吹奏楽・合唱の公演を聞いていただくという内容での実施となった。現在、同窓会名簿の改訂を行っているところであるが、それを機に、より一層の充実を図りたい。</p>
---

【重点方針】	7. 進路支援の強化・充実
【事業目標】	100%の進路保証
【評価指標】	卒業生の100%が進学・就職先を決めて卒業する。

施策名	内 容	関連部局
進路の多様性の周知	①進路ガイダンスを適切に実施し、多様な進路があることを周知させる。 (評価指標) 生徒の進路志望と進路状況に合ったガイダンスであるか。	進路指導
	②体験入学やインターンシップなどを通じ、適性を見極めをするとともに、努力目標を設定させる。 (評価指標) 進学希望者が複数校の体験入学に参加できたか。就職希望者がインターンシップに参加し企業から良好な評価がいただけたか。	進路指導 学年会
ポートフォリオの作成	①ポートフォリオのシステムを構築するとともに、生徒自らがその充実を図れるように支援する。 (評価指標) 平成30年中にeポートフォリオのシステムを構築する。	学習 進路指導 教務
高大連携授業の推進	①姉妹校ならびに関連学校を中心とした高大連携授業を推進し、建学の精神を体現するとともに、広く学問に触れる機会とする。 (評価指標) 参加した生徒が何を学び自己の進路にどう役立てたか。	学習
	②高度な学習機会を得ることで、向学心を刺激し、自己研鑽の必要性を認識させる。 (評価指標) 参加した生徒が何を学び自己の進路にどう役立てたか。	学習
大学進学実績の向上	①大学入学者選抜改革に対応したカリキュラムの構成を行い、一般入試における生徒の受験力向上に努める。 (評価指標) 平成32年度までに新カリキュラムを作成する。進学希望者の90%以上が第1志望の学校に合格できる。	進路指導 教育課程
	②基礎学力を強化し、AO入試、推薦入試における生徒の学力向上に努める。 (評価指標) 平成31年度より「基礎学力試験」を実施し、生徒の学力の実態を把握するとともに、どれだけ成績を向上させられたか。	進路指導
就職支援の充実	①地元産業または地元企業に対する理解を深め、適切な進路選択ができるように支援する。 (評価指標) 就職希望者の100%が就職できる。	進路指導



## 今年度の主なる留意点

1. 生徒・保護者に対して、適切かつ効果的な進路指導を行う。  
(1) ガイダンスが生徒・保護者にとって効果的に行われたか。
2. 新入試制度に対応したカリキュラムを構築する。  
(1) 本校の実態に照らしながら、本校を方向性を示せるカリキュラムが構築できたか。
3. 生徒の希望に添った進路を提供する。  
(1) 進路の多様性を示すことができたか。  
(2) 当該生徒に適した進路の情報を提供できたか。  
(3) 生徒の進路実現が図れたか。

## 反省並びに来年度に向けて

さまざまなガイダンスや説明会を通じて、進路に対する意識の高揚が図れ、進路実現へのステップとなったと考える。

就職においては、最初の出願において9割が内定を得られ、11月末までには全員の内定が得られた。

進学においては、概ね希望に添った進路先の確保ができたが、国公立大学や難関私立大学への希望者については苦戦する部分もあった。

上伊那の経済状況が不透明な点、大学入試制度の大幅な変更など、来年度の進路指導は新しい局面を迎えることになるが、情報をしっかり捉え、適正な対応を心掛けたい。